

Weekly Report



名古屋アイリスロータリークラブ

例会日	水曜日 13:00～14:00	会 長	藤谷 猛
例会場	ANA クラウンプラザ グランコートホテル名古屋	幹 事	深見 礼子
承 認	2013年6月18日	公共イメージ 向上	岩崎 幸弘



ロータリー：
変化をもたらす

2017～2018年度名古屋アイリスRCのテーマ

共に活動し、共に奉仕し、
共に頑張るアイリス

●お問い合わせ：office@nagoya-iris-rc.jp

●公式WEBサイト：http://www.nagoya-iris-rc.jp

第191回 例会

2017年7月19日 13:00

- 司 会：島村恵三 例会運営・司会委員
- 斉 唱：それこそロータリー
- 出席報告：出席者数 23 名 / 会員数 40 名
出席率 57.5%
前々回修正出席率 95.00%
- ゲ ス ト：米山奨学生 張宵宇(チョウ ショウウ)さん
- ビジター：なし

ニコボックス

- お忙しい中、会合に出席されている委員のみなさま
本当にご苦労さまです。心から感謝いたします。
(藤谷猛会長)
- アイリスゴルフ会に宿泊を兼ねて荘川高原ゴルフ場
にて楽しい日々を送りました。特に加藤君にはお世
話をいただきご苦労をおかけしました。(安井忠
クラブ戦略委員長)
- 本日 45 歳になりました。4 歳年上の嫁さんからの
お祝いの言葉は「アラフィフの世界へようこそ」でした。
そして昨日は1日早い誕生日プレゼントとしてアイ
リス会コンペで優勝させていただきました。ありがとう
ございました。(鈴田正道さん)
- アイリス会で荘川ゴルフ場へ行って、ほんとうに楽し
かったし、涼しかったです。菊池さんの美しい奥様
とかわいいみなみちゃんにも会えてうれしかったです。
(青木恭子会員増強副委員長)
- 昨日ゴルフ同好会「アイリス会」第 6 回大会が無事
終了しました。優勝は鈴田さん 気温がマイナス
5° 低く 大変過ごしやすかったです。次回は 9 月
21日 予定です。アイリス会の方はご準備よろしくお
願い致します。
ニコボックス合計 7,000円

会 長 挨拶

みなさん、生涯現役を貫いた聖路加国際病院、名誉
院長の日野原重明さんをご存知でしょうか？ ご存知
の方の中には、苦しい中、日野原さんの言葉に勇気
づけられた方も多いのではないかと思います。わたし
も、その一人でした。

驚く事に、100歳をすぎても現役の医師を続け、高
齢者が活躍できる社会の在り方などについて、提言を
続けた文化勲章受章者の日野原重明さんでしたが、
昨日の朝、お亡くなりになりました。105歳でした。

日野原さんは1911年(明治44年)に山口市で生ま
れ、当時の京都帝国大学で医学を学んで1941年
(昭和16年)に東京の聖路加国際病院で内科医とし
て働き始め、内科医長、聖路加看護大学長、院長な
どを歴任されました。診療のかたわら、「チーム医療」
の重要性を主張して、看護師の教育に力を注いだほ
か、1954年(昭和29年)には民間の病院でははじめて
人間ドックを導入し、生活習慣を改善して病気を予
防するという考え方を普及させました。

日野原さんの専門は内科学でした。成人病と呼ばれ



ていた脳卒中、心臓病など
を「習慣病」と呼んで病気の
予防につなげようと1970年
代から提唱してきました。旧
厚生省は1996年になって
成人病を生活習慣病と改称
し、今では広く受け入れられ
ています。

日野原さんが同病院に入ったのは、太平洋戦争が
始まった1941年です。戦中、戦後の厳しい時代を若
手医師として働いた経験から、一貫して平和の尊さや
命の大切さを説かれました。

日野原さんは、その時のことを「人間というのは、やっ
ぱり命は大切だから、それを助けたいと思う。人の命
を助けるためには、犠牲的なことでもやろうという気持
ちが、人間の心にはある。」「戦時中、都内の病院で
傷ついた人々を手当てしたのが、医師としての原点に
なりました。その時、十分な治療ができず、次々と命を
落とす市民をまの当たりにしたのです。

戦争のころは、物が無くて、薬もなくて、ひどい状態
で、食べるものがなかった。大切な子供や親を亡くし
た人や、すっかり家をなくして、どうなるかという不安の
どん底にある人の気持ちは、本当にわかりました。そ
して、どうやって立ち上げられるかと悩む人に握手をし
てエネルギーをあげたいと思いました。」と語られてい
ます。

大きな転機となったのは、1970年(昭和45年)58歳の時に起きた「よど号ハイジャック事件」に巻き込まれた経験でした。日野原さんは、4日間人質として拘束され、死を覚悟したそうです。そして、無事に解放された瞬間、自らの命についての考え方が大きく変わったといいます。

その時のことを日野原さんは、こう述べています。「タラップを降りて土を踏んだ時に、僕は命を与えられたのかなあって。これからの僕は、与えられた僕だなというのが、ちゃーっと頭にきた。

自分で得た人生ではなく、与えられた人生だと本当に感じた。僕の人生観が変わった。よど号事件というのは、そういう大きな力を僕に与えたと思います。」その経験から「命を人のために使おう」と考えるようになったとそうです。

また、国内初の独立型ホスピス専門病院を設立し、日本の終末期医療の確立にも尽力されました。それには、一つのきっかけがありました。それは初めて自らの患者をみとった時の経験です。

「私は死んでしまうような気がする」と言う患者さんが、「どんなに、お母さんに感謝していたのか、日野原先生の口から伝えて欲しい」と訴えたそうです。すると日野原先生は、「とんでもない、とんでもないと言って、じゃんじゃん注射した」といいます。助けたかったのです。しかし、それでも彼女は死んでいった。死んでゆく患者にこういう態度で挑んでいた。死を受け入れることの援助をしなかったことに対して、僕は非常に自責の念を持ったと語られています。

そのことから、人はどう生きるべきか、どう死と向きあうべきか、その思いを伝えることが日野原さんのライフワークとなりました。

こうした経験を踏まえて決断したのが、95年の地下鉄サリン事件での迅速な負傷者受け入れでした。外来の受け付けを止めて、全職員が救急搬送される患者の手当てに当たり、軽症者には緊急事態に備えて酸素吸入ができるよう配管を整備していた廊下で処置をしました。

87年から全国の小中学校で「いのちの授業」も続けており、200校以上を訪れました。子どもたちに、「命は生きている時間そのもの。大人になったら、自分の時間を誰かのために使ってほしい」と語り掛けてきたのです。国内外の学校に出向き、おこない続けた「いのちの授業」。日野原先生は、こう語りかけます。

「生きているという事は、みなさんが使える時間を自分で持っているという事です。みなさんが大きくなって、大人になって、その時には、みなさんは自分の使える時間を誰か困っている人のために使うことを考える、そういう時がくるんですよ。」

そして、子供たちに、こう質問を投げかけます。「命って何？」

命は、持っているのは確かだけれど見せられないものです。見えないものの中には、大変に大切なものがあります。「いのち」は「時間」です。君たちが持っている時間ってあるでしょう。食事したり、お風呂に入ったりするのは、誰のためにやるの？

すると即座に、子供たちは「自分のため」と答えます。そうすると君たちが使える時間を自分のために使っているんだね。命というものは、寿命というものは、時間ではかるんです。自分の持っている時間、使える時間が「いのち」なんです。自分が使える自分の「いのち」をどう使うかは、君たちが大きくなってくると、だんだん考えなくてはなりません。

そこで日野原先生は自分の時間を、助けを求めるひとに使ってほしいと呼びかけます。

「ゆるすことのできる人になってください。きっと君たちならば、私たちにできなかった平和を実現してくれると信じています。どうか君たち、よろしく頼みますよ。」「やはり私たちには寿命が必ずある。限界があるので。自分の時代で完成するっていうのでなくて、それはあとに残すということが良いのです。」

日野原さんは、ご自分の精神を継ぐ人ができれば良いという事を次の時代の人に、子供たちにわかってもらえればいい思い、子供たちへのアプローチを頻繁に行ってきました。そして子供からエネルギーをもらっているような気持ちになったと言われています。

日野原先生は、こんな詩を残されました。

真の希望

富めるときの私たちの希望は、財産や名誉など外なるものへの欲望となる。人が外にもつもの、それをもって人は死ぬことはできない。人が生まれた時には、裸の手には何ももっていないかったのだ。

真の希望は、心の中に抱くもの。その希望の一部を、望みを失った友へ贈ろう。

人は、どう生きるべきか。何をするにも生きがいを感じなさい。

日野原さんは、100歳を超えても誰かの役に立てないかと常に自問自答していたそうです。

私たちロータリアンは、高潔さをもった真のロータリアンでしょうか？

私たちの目指す奉仕とは何でしょうか？

幸いにも私たちには、4つのテストという尺度があります。

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか

私たちお互いは、もう一度、奉仕の意味を真剣に考えてみましょう。

以上、会長挨拶とさせていただきます。
ありがとうございました。

各種報告

■幹事報告 深見礼子幹事
1点報告がありました。

■委員会報告
分区共同事業について。
東山動植物園に桜の木30本植樹を検討。

新入会員の自己紹介

お二人の新人会員の方より自己紹介がありました。

○ 岩田広樹(いわた ひろき)さん



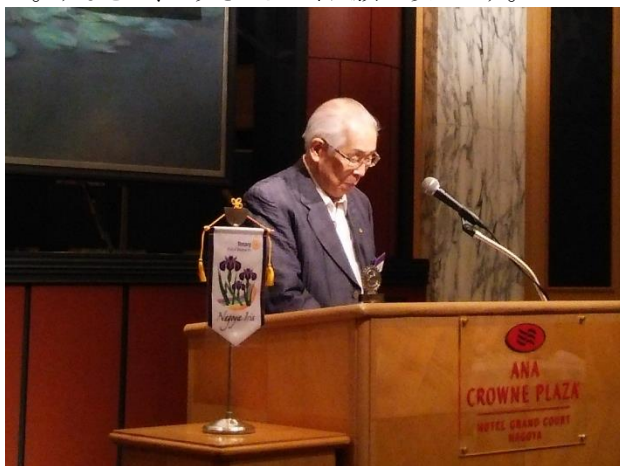
○ 澤田直美(さわだ なおみ)さん



委員長抱負(2)

■三木庸行会員増強委員長

本年度は、クラブの組織づくりを完成させ、充実を計るために会員をさらに増やさなくてはなりません。会員それぞれがロータリーを学び、クラブでの役目をしっかりと果たせば、自ずと充実したクラブへと成長致します。それには、まず会員増強をしっかりとやりましょう。会員一人一人が、一人の会員増強を目標にして下さい。みなさん、どうぞよろしくお願い致します。



第192回 親睦夜間例会

2017年7月26日 18:30～

■第1回親睦例会(夜間)

■会場:ANA グランコートホテル 中華料理 花梨

■出席報告:出席者数 17名 / 会員数 40名
出席率 42.5% 前々回修正出席率 92.50

○会長点鐘・挨拶:ロータリーの発祥は親睦からでした。当時のアメリカは殺伐とした時代が続き、真の仲間を得ることは本当に難しかった時代でした。そんな中、ビジネスの悩みや喜びを分かち合える場として始まったのがロータリーでした。原点を振り返り、私たちも親交を深め、悩みや喜びを話し合い、ビジネスを発展させられる親睦例会を作り上げて行ければと思います。本日は、楽しくやりましょう。

○乾杯:島村副会長

新しい期も始まったばかり、まだ11ヵ月ありますが、新会長、新幹事のご健闘を祈ります。

～歓談～

○中締め:安井戦略委員長

親睦を深めるには良い例会であったが、もう少し参加者がメンバー増えると良い。

○藤谷会長の点鐘により閉会